

滋賀のオール・ブリュットに関するアンケート結果

県では、オール・ブリュットの魅力を皆様に広く伝えるため、企業、団体等に御協力いただき、作品の展示およびその魅力発信に資する活動を行っています。
 そこで、オール・ブリュットの現在の認知度を測るとともに、来年度以降の効果的な魅力発信方法を検討する参考とするため、アンケートを実施しました。

★調査時期: 令和元年7月

★対象者: 県政モニター399人

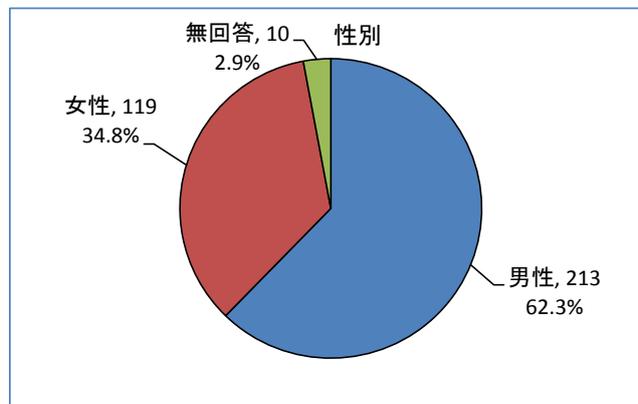
★回答数: 342人 (回答率85.7%)

★担当課: 文化スポーツ部 文化芸術振興課

(※四捨五入により割合の合計が100%にならない場合があります。)

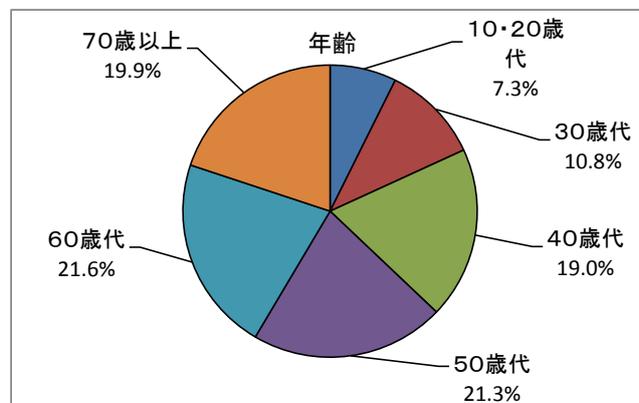
【性別】

項目	人数(人)	割合(%)
男性	213	62.3
女性	119	34.8
無回答	10	2.9
合計	342	100.0



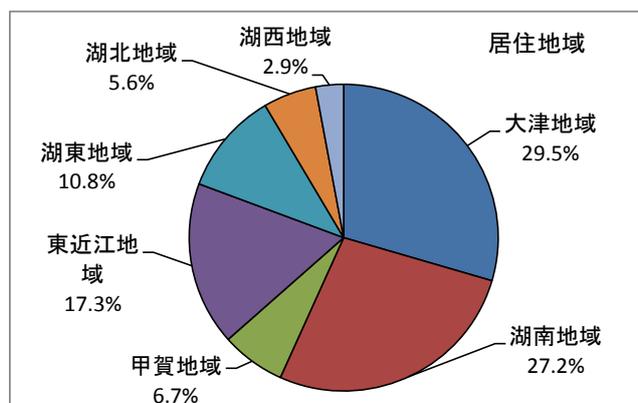
【年齢】

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	25	7.3
30歳代	37	10.8
40歳代	65	19.0
50歳代	73	21.3
60歳代	74	21.6
70歳以上	68	19.9
合計	342	100.0



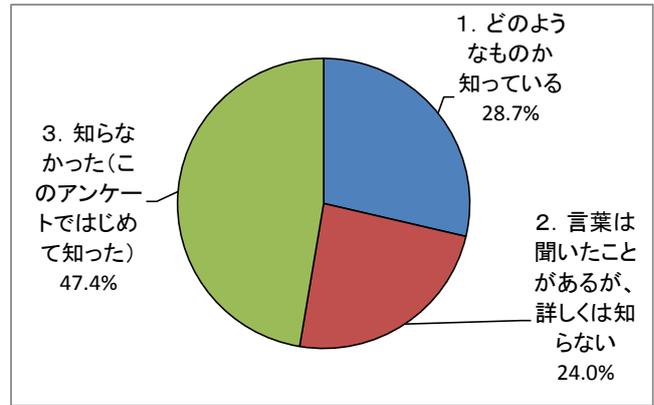
【居住地域】

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	101	29.5
湖南地域	93	27.2
甲賀地域	23	6.7
東近江地域	59	17.3
湖東地域	37	10.8
湖北地域	19	5.6
湖西地域	10	2.9
合計	342	100.0



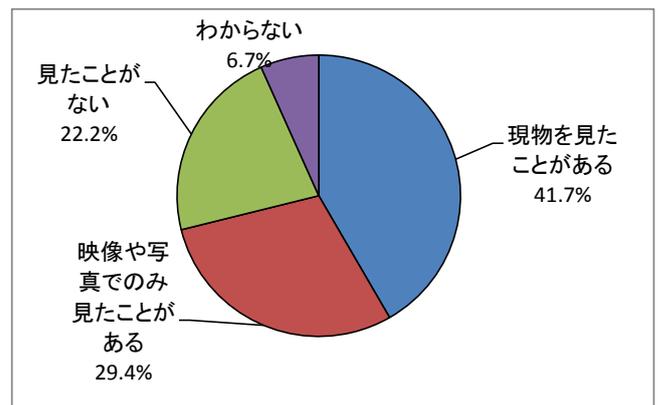
【問1】アール・ブリュットを知っていますか。(回答チェックは1つだけ)(n=342)

項目	人数(人)	割合(%)
1. どのようなものか知っている	98	28.7
2. 言葉は聞いたことがあるが、詳しくは知らない	82	24.0
3. 知らなかった(このアンケートではじめて知った)	162	47.4
合計	342	100.0



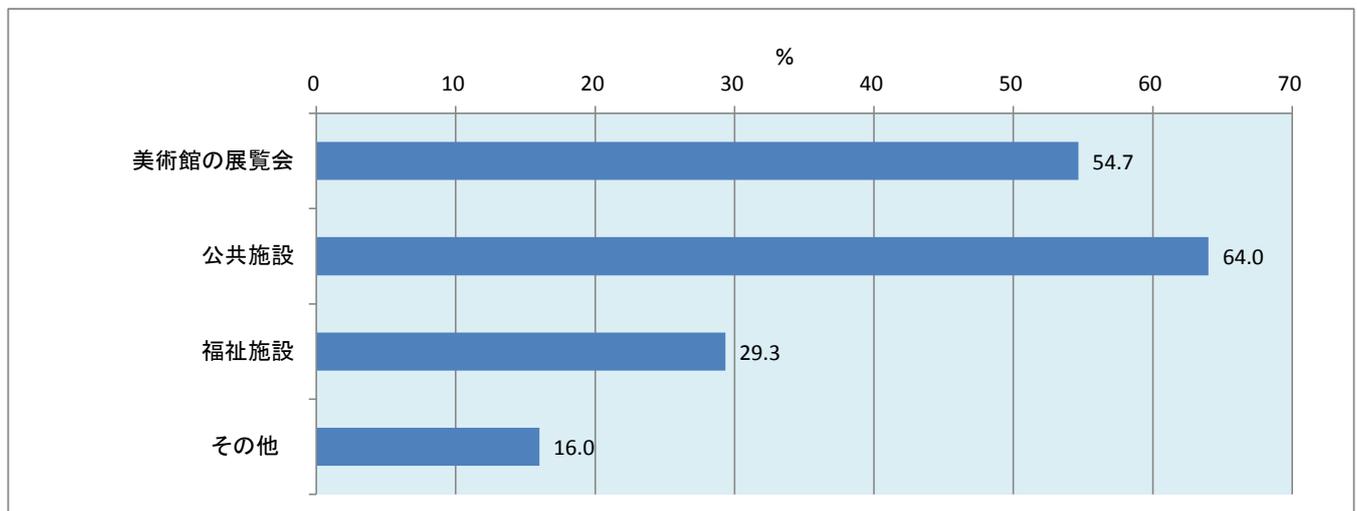
【問2】※問1で「1. どのようなものか知っている」または「2. 言葉は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」と回答された方におたずねします。
アール・ブリュット作品を御覧になったことがありますか。(回答チェックは1つだけ)(n=180)

項目	人数(人)	割合(%)
現物を見たことがある	75	41.7
映像や写真でのみ見たことがある	53	29.4
見たことがない	40	22.2
わからない	12	6.7
合計	180	100.0



【問3】※問2で「1. 現物を見たことがある」と回答された方におたずねします。アール・ブリュット作品をどこで御覧になりましたか。(回答チェックはいくつでも)(n=75)

項目	人数(人)	割合(%)
美術館の展覧会	41	54.7
公共施設	48	64.0
福祉施設	22	29.3
その他	12	16.0



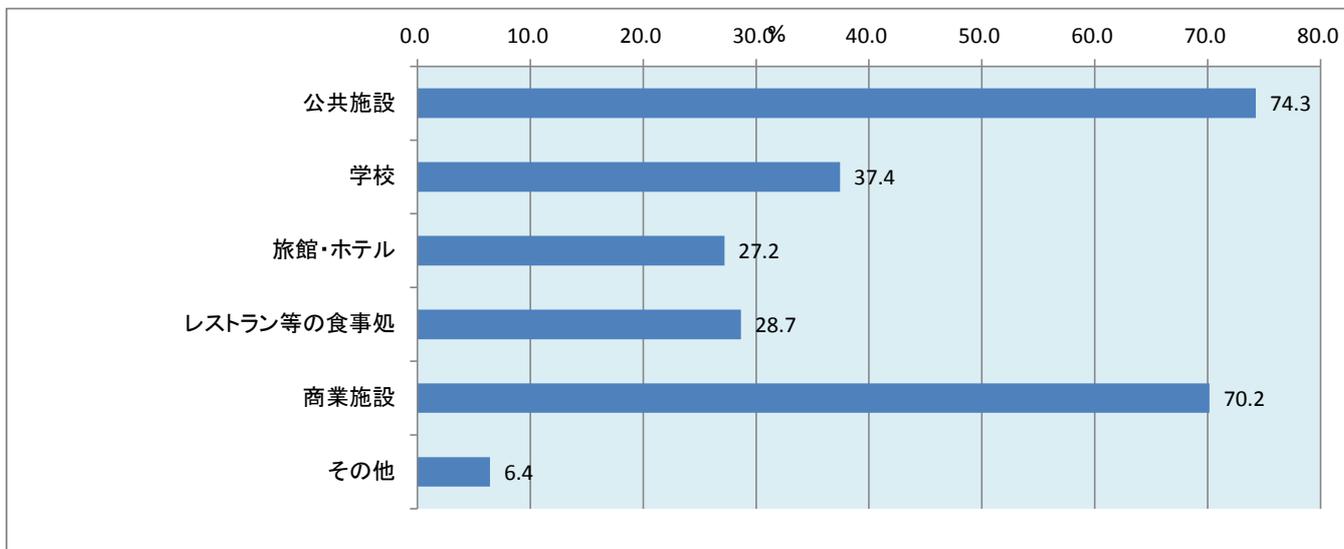
【問4】※問2で「1. 現物を見たことがある」「2. 映像や写真でのみ見たことがある」と回答された方におたずねします。

アール・ブリュット作品を御覧になっていかがでしたか。感想等をお聞かせください。(任意)(抜粋)

- ・ 「生き」の芸術」と言われるとおり、人間本来の力強さや繊細さを感じる。また、素直な表現力に圧倒される。
- ・ それぞれの個性が出てよいと思う。ただ先入観を持って鑑賞してしまいがち。
- ・ 感動する。「すごい」という言葉で表現できないぐらいのインパクトを受ける。
- ・ 良くわからない。私の感性では解釈できないと思っている。でも本人には何か明確な語りがあると思う。
- ・ 素朴で楽しかった。
- ・ 発想に固定観念が感じられずおもしろい
- ・ 作品については、感銘を受けたが、作品のテーマなどを連想することはできなくて、説明を聞いて納得する感じでした。
- ・ すばらしい。が、障害を持つて人だから、という区別には、疑問を感じる。
- ・ 独特な形をした像などがあり、何を表した像なのか考えるのもある。どこまで理解するか、その時々で興味が左右される。
- ・ どの作品も作者の魂が籠っていると感じた。風変わりな作品があつて、「近づきたい」と感じるものもあつた。
- ・ 意外な所で作品を鑑賞することができ、得した気分になつた
- ・ 緻密な根気がある作業だと思われるのですが、マイペースで行える事に感心した記憶があります。独特な色使いや、形状の捉え方に、独特の感性が漲っている様に感じました。良き指導者のもとで、研鑽されて、一流のアーティストになれんことを、望んでいます。
- ・ 理解するのが難しかった。
- ・ 特別な目で見るとする必要はない。一般的な作品として鑑賞すれば良い。
- ・ 作品の品質は 申し訳ないが展示する程の力作ではないと思う。展示するに相応しい作品を選んでほしい。それが芸術への礼儀であり、また作者への礼儀と思う。
- ・ 美術品とはいいがたいものが多い。内では正確な理論を持たない選者が居ないのに、アールブリュットと称する事は、正確ではなく、滋賀県が当呼称を多用することに、疑問より腹立たしい。正確な説明も出来ず、理論的武装もせず、美術音痴、無知の証明といなっている。
- ・ アール・ブリュットとして発表されているからといって、特別に感想を持つことはない。素晴らしい作品は素晴らしいと感じるし、そうでないものは、そのように感じないだけです。
- ・ 従来の芸術のスタイルに制約を受けていない作品で、満ち溢れる生のエネルギーを感じられた。さまざまな作風の作品があり、一口にアール・ブリュットと言っても幅広い作品があるのだと知つた。

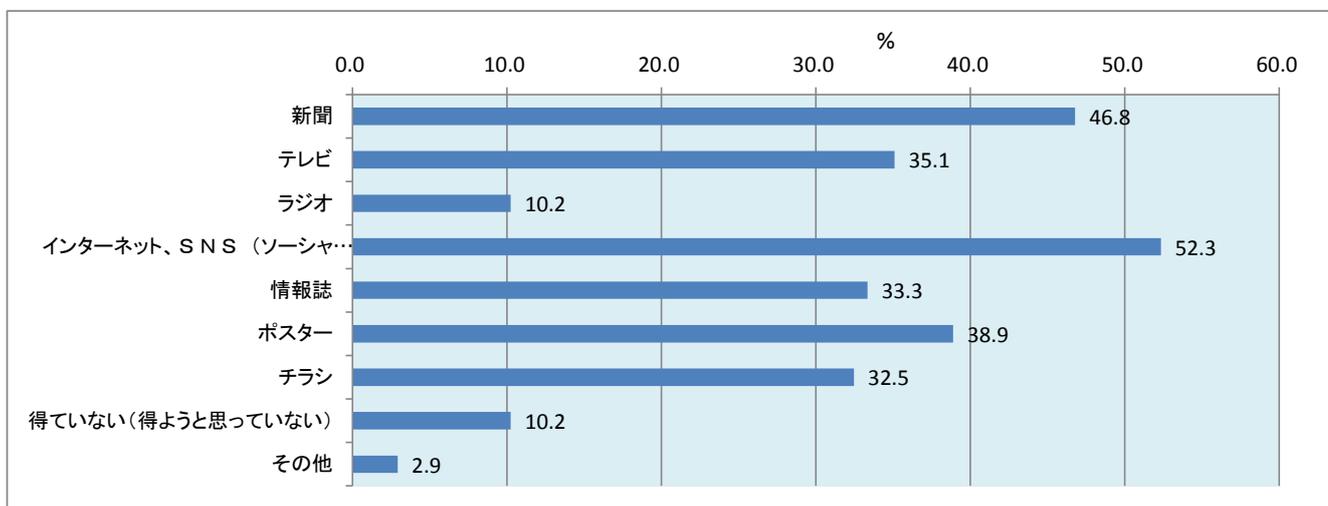
【問5】県では、より多くの県民の皆様にもアール・ブリュット作品に触れていただけるよう、県内各地でのアール・ブリュット作品の展示を行っています。
アール・ブリュット作品の魅力をより多くの方に知っていただくためには、どのような場所に作品の展示があるとよいと思われますか。(回答チェックはいくつでも)(n=342)

項目	人数(人)	割合(%)
公共施設	254	74.3
学校	128	37.4
旅館・ホテル	93	27.2
レストラン等の食事処	98	28.7
商業施設	240	70.2
その他	22	6.4



【問6】普段、展覧会等の美術情報をどこから得ておられますか。
(回答チェックはいくつでも)(n=342)

項目	人数(人)	割合(%)
新聞	160	46.8
テレビ	120	35.1
ラジオ	35	10.2
インターネット、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	179	52.3
情報誌	114	33.3
ポスター	133	38.9
チラシ	111	32.5
得ていない(得ようと思っていない)	35	10.2
その他	10	2.9



【問7】その他、滋賀県におけるアール・ブリュットの取組について、御提案や御意見等がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・ アール・ブリュット作品の商品化および販売について、著作権、知的財産権、さらには成年後見制度の活用の在り方など、様々なハードルがあることは理解できるが、心を込めて製作された作品が、見る者に勇気や希望を与えてくれるだけでなく、作者本人の生活に寄与されることを願う。
- ・ 近江学園については知っていましたが、その芸術をアール・ブリュットというのは知りませんでした。このような取組みのことを知ることができました。ぜひ、広がってほしいです。
- ・ 福祉か芸術か、その両方かという、あくまでも芸術性と視点からのみ取り組むべきだと思う。
- ・ 滋賀県がアールブリュットに積極的に取り組みそれを一つの売りにしていること自体は素晴らしいと思うが、一つ気にかけてほしいことは、作品を作ることのできる障がい者の方はまだまだ恵まれていない方達であり、作品を作ること出来ないその他の障がい者の方にも行政として予算を大幅に使って頂きたい。
- ・ 年代を問わず県民が気軽に鑑賞や参加ができる、この環境づくりをお願いします。
- ・ 著名な美術作品をそれなりの事前知識を持ち鑑賞するのは違う感動がありました。海外の美術館でもみた記憶があります。作品を前にして その場での驚きと感動が大きいですね。
- ・ キーワードそのものは初耳でしたが、公共施設中心に触れる機会は今までもありました。個性的でカラフルな作品が多い印象があるので、暗くなりがちな公共施設の空間を明るくしてくれそうなので、積極的に活用して欲しいと思います。展示場所の例として、県庁などが挙げられていましたが、普段一般の県民が県庁内に足を踏み入れる機会はほぼ無いと思います。
- ・ 銀行は待ち時間を利用して鑑賞できますし、とてもいいと思います。ショッピングモールは、周囲が華やかかつ賑やかなので、足を止めて鑑賞するのにふさわしいかどうか疑問です。県の立場としての展示場所というに限られていますし、作品の保護の観点からもなかなか難しいかとは思いますが、今後 琵琶湖博物館など、文化に関心を寄せる人が多く集まるところで発表していけるようになるといいですね。
- ・ アール・ブリュットの名称、なじみにくい。ほかに名称無いか。PR不足のようにも思われる。優待券を発行するなど知名度向上に努めるべき。
- ・ この取り組みを初めて知りました。展覧会の場所はたくさんあり、よく行く所なのに、知らないとは。宣伝や発信があまり目立っていないのかな、と思います。また、見ている記憶に残らないのかな、と思います。そういう工夫も必要なのではないでしょうか？
- ・ アールブリュットにかかわらず、公共の空間にどんどんアート作品や、表現のできる場を置いて欲しいです。
- ・ 私自身が障がい者であるが、このような滋賀県の取り組みを知らなかった。障がい者手帳の交付や更新の時にぜひ教えてほしいです。また障がい者自身の活動を経済的に支援する取り組みをしてほしいです。
- ・ 年齢が高くなるほど 近場でないと何があっても出かけない事のほうが多くなります。一番は 買い物に出かけるぐらいの距離で作品展示が行われていれば 触れられるかと思う。
- ・ アール・ブリュットを成功させるためには税金を永続的に使って、作品の価格を永続的に消費者に保証することが重要であると思います。西洋芸術の歴史に障がい者の枠を確実に作り上げ、新しい商品価値を作ることこそが、アール・ブリュット成功の秘訣だと思います。そのためにはニューヨークもしくはフランスの芸術界と富裕層に特別な方法で働きかける必要があり、県内で完結する仕事だけではアール・ブリュット事業の成功は成し得ません。
- ・ 県のアール・ブリュットへの取組の方向性がなんなのか理解できていません。ただ単に発表・展示の機会をあたえようとしているだけなのか、県として取組を行っている以上は、これらを通じて何か次のステップに向けた支援プログラムみたいなものがあるのかどうか等々??今ひとつ取り組みの意義等、よく理解できてません。